

県環境保全協会

## 川や海を守る！川内小児童

## 浄化槽の役割学ぶ

川をきれいにする大切さや浄化槽の役割などを学ぶ環境学習が14日、薩摩川内市の川内小学校であった「写真」。

4年生児童48人が普段の生活の中で、川や海を守るためにできることを考えた。県環境保全協会（松里保廣理事長）が協力した。児童は、川や海の汚れのもとや顕微鏡で水をきれいにする微生物の動きなど



を観察。また、しょうゆを1滴入れた水道水をCOD（化学的酸素

要求量）測定キットを使って汚染度を測ったり、水道水と隈之城川の透明度の違いを見たりして、きれいな水の大切さに理解を深めた。

このほか、浄化槽のミニチュアを使った説明では、処理水を消毒し河川などに流す仕組みを紹介。参加した児童は「水を大切に使わないといけない」「少しの醤油でも川が汚れるんだ」と感想を口にしていた。

同協会検査企画課分析室の原口佳子主査は「生活排水が水環境に影響していることを知ってもらい、少しでも普段の生活で気を付けてもらえば」と話した。